

●2014年の「新生」に向かって

シヨールーム兼ねる「夢工場」

中堅・中小・ベンチャー

社長交代

「新社長就任から1年、会社は組織らしくなってきた」。NKE創業者で会長の中村圭二の正直な感想だ。自分のスタイルを、カリスマやワンマンといった創業経営者ならではの「アナログなエモーショナル経営」と表現する。そして「昔はこれで良かったが、今後はデジタル経営でないと勝て残れない」と意識を変えた。圭一は会長に退き開発に専念、後任に長男で

「この一言で(交代を)決めた」。

05年6月末に道一が新社長に就任。前後して変革の取り組みが動き始めた。01年のトラブルを教訓にして

知財管理部を設置。会社組織も事業部制度を改め、生産や営業など機能別組織に再編し、階層も3段階とシンプルにした。

象徴製品の誕生

また同年代の中堅社員を中心に週1回の勉強会を主宰し、経営環境や意識改革などを学ぶ機会を設けた。



伏見工場のラインで動くピッキングナビゲーターシステムを提案している。ネットワークや連携など今までは連携がポイント(道一とアライアンス窓口のインキュベーショングループも設置した。)

夢工場

夢工場と名付けた伏見工場がシヨールームを兼ねる。「自社ラインをモデルに現場ニーズをつかむ」弾が、今年5月(同)の狙いだ。社員や見学者の意見が製品や現場の革新につながり、まさに夢を込めた工場だ。

技術導入、連携で開発力強化

道一は「未来の発展は、ビジネスプランを考えられる人材の多寡に比例する」とし、「フューチャープラン2014」でうたう人中心の会社づくりを實踐する。勉強会の中堅から若手や新人を巻き込み、社内全体に「新生」の息吹を吹き込

製品戦略も不易流行を積む。ピッキングゲーターだ。部品の入庫で、表示ランプが稼働して棚位置を指示するシステム。各棚に設けられているのが何よりの証拠だ。(敬称略、この項おわり。京都支局長・平野健が担当しました)

に開発した「ピッキングゲーター」だ。部品の入庫で、表示ランプが稼働して棚位置を指示するシステム。各棚に設けられているのが何よりの証拠だ。

20世紀から21世紀へ移行し、NKEは変革を続ける。道一は「まだ新生に道半ば」と厳しいが、社員や製品に手応えを感じている。破顔する回数が増えているのが何よりの証拠だ。

得手だったソフトウェア技術

勝つ

NKE ④

得手だったソフトウェア技術